

**自殺・多重債務の陰にみえる
病的ギヤンブリング**

西代表——十六七

仁表
西林直之

自殺と多重債務が、重大な社会問題となつてゐるが、これらの問題と深い関わりをもつ病的ギャンブリングについては法律関係者のみならず医療関係者からも、あまり注意が払われず今日に至つてゐる。ギャンブリング問題は、そもそもギャンブリングそのものの概念が定かでなく、金銭問題や人格の問題として受け止められやすく、金銭問題が生じなければ医療問題にもなりにくい。医療、司法、福祉の各分野に跨りながらも問題の中心点が見えにくいいわゆる「ゲーム領域」の問題である。

る。現在精神医学の世界的な診断・分類基準では、ギャンブリングへの過度のめりこみは、依存症のカテゴリーではなく“衝動統制の障害”の中に「病的ギャンブル」として分類されている。ちまたで使われるギャンブル依存症というのは、慣用的な造語であり学術的に用いるのは適切ではない。

自殺と債務問題と病的ギャンブルには関連があるのか。多くの方が印象としては、イエスであろう。しかし、この三者における要因間の関連を調査した研究は諸外国においても極めて少なく、現段階では、自殺と債務問題、債務

ながら、これらの関連について論じてみたい。

第一の問題は、自殺と多重債務との関連である。平成一八年の警察庁統計では、自殺の原因が「経済・生活問題」であったのは、自殺者の約三割であった。自殺動機の一一位を占める「健康問題」も経済的問題と密接に関連している問題である。完全失業率と自殺死亡率は、その変動が極めて近似することが知られている。多重債務者の三五%が自殺を考え、二・一%が自殺未遂をしていた（国民生活センター調査）との報告もあり、多重債務と自殺は相関していると考えてよいであろう。

第二の問題は、債務問題とギャ

ラーの一〇%以上が破産者リストに登録され、七七%がギャンブルのために不渡りの小切手を書いたために、経験を持つとの報告がなされている。破産者の負債金額は、六万ドル～一萬ドルであった。カジノの影響調査と日本のギャンブリングの問題とではかなり異なるものの、債務問題とギャンブリングは関連していると考えてよいであろう。

がギャンブリングの問題を抱えていいるのかは分かっていない。諸外国の調査では、問題あるギャンブルの一〇～八〇%が自殺を試み、二〇～三〇%が自殺を考えたと報告されている。ギャンブリング問題を抱えた人は、そうではない人よりも自殺率が高い。ギャンブルの自殺調査で注目すべきは、ギャンブリングは若年層（三〇歳以下）の自殺率を上昇させることである。本邦でもギャンブリングへの参加率が高いのは二〇～三〇歳代であり、自殺率を高めている可能性はある。本邦での証明はできな
いが、ギャンブリング問題は自殺率を上昇させることは確かである。

以上のことから、多重債務、自殺、ギャンブリング問題は、相互に危険を増幅させる関係を持つてゐるとしてよいであろう。さらに、精神医学の既知の事実として、精神医学的問題は、経済問題を発生させやすいこと、精神医学的問題の重複は自殺の危険因子であることが知られており、既存の精神医学的問題にギャンブリング問題が重複した場合のいずれでも、経済的問題の悪化及び自殺の危険の増大が生じ得る。しかしながら、ギャンブリング問題は、精神医学的な問題としては見落とされやすく、金銭問題のみに焦点が当てら

図られても、結局同様の問題を繰り返してしまう。本人の意志だけではコントロールできないからこそ、「病的」なのである。本人だけでなく家族や周囲の人たちも、金銭問題に目を奪われ、目の前の不安を軽減させることに躍起になりやすいが、金銭問題は原因ではなく結果のひとつに過ぎない。安易な債務整理は、問題の先送りを生じさせ、悪循環の進行により結果的には自殺の危険を増大させる可能性があることを介入する人たちはしっかりと認識しておくべきである。一方で、安易な医療化もまた、「病気への逃避」を引き起こしやすく注意が必要である。

ギヤンブリング問題の背景に

「こと若くされており、問題は解決されることは表面化した問題のみでなく、まづ多面的に根本的な問題の評価を行い、回復支援の長期的な方向性の設定が必要である。また周囲を巻き込む問題だけに家族や周囲の人たちが問題への理解を深め、適切な回復支援や対応を行うことができるよう」にサポートしていくことも必要である。

現在、自殺防止対策のひとつとして「うつ状態・うつ病」の早期発見、早期介入が注目されているが、ギャンブリングの問題を抱える人たちは、経済的困窮、就労問題、家庭問題などが二次的に合併しやすく、高率にうつ状態を合併することが知られている。ギャンブリング問題は、自殺率上昇の悪循環を生じさせる危険性を持つて

れてしまいがちである。
これらの事柄から、多重債務や
自殺問題の領域に携わる職種の人
たちがヤンブリング問題に関する
時に留意すべき点について簡単
に触れたい。問題介入に当たつ
て、主眼に置くのは「多重債務、
自殺、ヤンブリング問題」の悪
循環を止めることである。病的ギ
ヤンブリングのレベルでは、反省

は、個々の体質、発達の問題（知的、情緒発達の障がいなど）、環境などが深く関与している。特に若年層では、ギャンブリング問題は、対人関係が作れない、社会に適応できないといった「社会的引きこもり」の表現型の一つとらえることが可能である。病的ギャンブリングは、依存症領域よりも自閉性障がい領域に近い病理を持つ

る職種の方々には有用と思われる。すべてが手探りの状態であることは、どの職種であっても変わらなく、専門化不在の状況であるからこそ、それぞれの立場にこだわりすぎず多視点からの介入と連携を常に意識して、問題に当たることが重要である。

ヤンプリンングというよう¹に二者間の関連を調べた研究結果から、全体の関連を推測するしかない。本邦におけるこれらの関連調査はさ²ンプリンングの関連である。国民生³活センターのデータでは、多重債務者の借り入れ理由の約一二%が遊興費⁴やヤンブル費⁵、約八%が遊興費⁶やヤンブル費⁷、約八%が遊興費⁸やヤンブル費⁹である。